

平成 2 9 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」  
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立淀川中学校

平成 3 0 年 3 月

## 大阪市立淀川中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校の課題として、自尊感情が低いこと、社会事象に対する関心が高くない、家庭での学習習慣が身につけていないことが挙げられてきた。そのための取り組みとして、職業体験学習、地域と合同での防災学習、発達段階に応じた性教育、読み物教材を中心とした道徳授業の推進、現代の世界情勢を考える人権学習など、体験を重視し、生徒自らが考える授業の充実や自主学習プリントの作成などに取り組んできた。その成果については徐々にではあるが見られている。今後は以上の取り組みの継続と見直しを進めることが必要である。

さらに、いじめ・不登校の克服に向けて、問題の事象だけでなく、その背景や生徒の内面を理解し、校内組織体制を整え、根本的な解決を目指すことが必要である。

**中期目標****【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成28年度より15%向上させる。
- 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 平成32年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を平成29年度からの4年間で10%向上させる。
- 平成32年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を70%以上にする。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割以上の生徒の割合を平成28年度より10%向上させる。
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成28年度より向上させる。
- 平成32年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を40%以上にする。
- 平成32年度3学期における授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年減少させ、平成33年度調査において10パーセント以下にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成 28 年度より 15%向上させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を 50%以上にする。
- 平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 70%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 8 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を前年度より 5 ポイント向上させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の 7 割以上の生徒の割合を平成 28 年度より 10%向上させる。国語 昨年、今年ともに 79% 数学 昨年 70% 今年 73%
- 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成 28 年度より向上させる。昨年 28.3% 今年 27%
- 平成 29 年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を 40%以上にする。
- 平成 29 年度 3 学期における授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年減少させ、平成 29 年度調査において前年度より減少させる。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### **【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- いじめや暴力行為の件数は年々減少してきているが、いじめはいつでもどこにでも起こりうることを念頭に日々取り組むことが大切であることを教職員が共通理解し、取り組むことが大切である。
- 不登校の克服については、全ての生徒に対して内面理解に努め、生徒、保護者に寄り添った対応を継続的に行うことが今後必要である。
- 平成31年度の道徳の教科化に向けて、その目標や意義について教職員が共通理解し、充実したものにできるように研修、研究授業を行うことが必要である。

#### **【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 学力の向上については全国学力テスト、チャレンジテストとも全国、大阪府・市の平均よりいずれも下回っているが年々その差は縮まってきている。しかし、全国学力テストの問題Bの結果にみられるように「考える力」について大きな課題がある。新しい学力観に基づく学習内容・指導方法の工夫が必要である。
- 体力の向上について、全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果では全体として男子が昨年より下回り、全国平均も下回っている。女子はほぼ同じで、全国平均を上回っている。男子については学年ごとの差なのかどうか、さらなる分析が必要である。

大阪市立淀川中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>①平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>②平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>③平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>④平成29年度末校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>⑤平成29年度の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成28年度より15%向上させる。</p> <p>⑥平成29年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。</p> <p>⑦平成29年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>⑧平成29年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>あいさつ運動や遅刻をなくし、規則正しい学校生活を促進するための取り組みを行う。</p> <p>指標 各学年1名以上の教員、その他地域の皆さんの協力を得、登校指導を充実させる。また、教員のスキルの向上を目的とした生活指導、特別支援教育に関する研修を年間、複数回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>規範意識や感謝の心、自他を尊重する心を育てるための取り組みを行う。</p> <p>指標 各学級とも年間30時間の内、読み物教材を使って20時間の道徳授業を実施する。また各学年とも発達段階に応じた性教育を実施する。</p>	C
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自らの将来について考える心を育てるため、キャリア教育を推進し、充実させる。</p> <p>指標 1年生で職業講話、2年生で職業体験、3年生で高校体験授業を実施する。</p>	B

取組内容④【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校の情報を積極的に公開し、地域・保護者の信頼を得られるように努め、密接な協力関係を構築する。	B
指標 週1回以上、ホームページを更新する。また校長室だより、学年だより、学級だより、保健だよりを定期的に発行する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
全市共通目標	
① 昨年2件、今年7件の案件を認知している。生徒の認識では約60％は解決済みと捉えているが、いじめについてはどの時点で解決とするか判定は難しく、今後も完全な解決と見守りを継続することが大切である。	
② 12月実施の学校独自アンケートの結果によると90％を超えた	
③ 昨年1件 今年0件であった。	
④ 昨年より減少させることができた。	
学校の年度目標	
⑤ 全国学力学習状況調査での比較では約8％増加した。	
⑥ 減少した。本校の重点課題とし、きめ細かな指導を行った。	
⑦ 学校独自アンケートの結果によると70％を超えた。	
⑧ 学校独自アンケートの結果によると75％を超えた。	
取組内容①	
教員による登校指導を毎日行い、あいさつの声掛けや服装指導を行っている。その結果遅刻は昨年より減少している。また、会議等において、生徒の内面理解を基礎とした生活指導の重要性を共通理解し、徹底を図っている。	
取組内容②	
読み物教材を使った道徳授業については各学年10時間から15時間行った。性教育については各学年とも6時間以上行い。それぞれ発達段階に応じたテーマを設定した。	
取組内容③	
キャリア教育についてはほぼ計画通りに実施できた。	
取組内容④	
週平均、複数回ホームページを更新し、閲覧数も毎年増加している。その他、校長室だよりを各町会で回覧していただいている。校内では各学年とも学年通信を発行し、また保健室だよりも定期的に発行している。	
以上、目標数値を下回ったものもあるが、概ね計画どおりに実施することができた。	
次年度への改善点	
○平成31年度の道徳の教科化に向け、年間指導計画を作成し、指導内容の精選と充実に向けた研修の充実を図ることが必要である。	
○不登校生徒の減少に向けてのさらなる対策が必要である。	
○現在行っている取組を継続するとともに、絶えず見直ししながら改善を重ねることが必要である。	

大阪市立淀川中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>①平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。</p> <p>②平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。</p> <p>③平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率8割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。</p> <p>④平成29年度校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。全テによる</p> <p>⑤平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を前年度より5ポイント向上させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>⑥平成29年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割以上の生徒の割合を平成28年度より10%向上させる。</p> <p>⑦平成29年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成28年度より向上させる。</p> <p>⑧平成29年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を40%以上にする。</p> <p>⑨平成29年度3学期における授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。</p> <p>⑩全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年減少させ、平成29年度調査において前年度より減少させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>生徒の学習に対する意欲・関心を育て、自主的、意欲的に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>指標 ICTの効果的な活用やアクティブラーニングを取り入れた授業を推進するため、年間3回全教員による授業研究を実施し、その他授業公開週間を設け、相互授業参観を実施する。</p>	B



<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 本校生徒の課題である家庭学習習慣を定着させるための取り組みを推進する。</p> <p>指標 各教科授業で復習を中心とした家庭学習のための課題を与える。また学校元気アップ支援員と連携し、生徒が自由に活用するための自主学習プリントを作成する。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 自らの健康に関心を持ち、体力の向上に対する意欲を育てるための取り組みを推進する。</p> <p>指標 保健体育授業の充実、さらに生徒による保健委員会を活発化させ、その活動を中心とし、生徒の意識の向上を図る。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>全市共通目標</b></p> <p>① 3年生では上回っている。</p> <p>②③ 学年によってばらつきがある。②については60%を下回る学年と80%をやや超える学年がある。また、③についても20%を超える学年と10%を下回る学年がある。</p> <p>④ 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果では増加している。とくに「そう思う」は倍増している。</p> <p>⑤ 男子は0.37%上回ったが、他の種目では昨年より下回るものも多く、体力合計点の平均では全国、大阪市を下回った。女子は約4%上回り、他の種目でも昨年以上回るものも多く、体力合計点の平均点も全国、大阪市を上回っている。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>⑥ 国語では2%増加し、数学では10%増加した。</p> <p>⑦ 1%減少したが、「している」は2倍以上の回答であった。</p> <p>⑧ 類似の「授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしていますか」では50%を超えている。</p> <p>⑨ 国語については70%をこえているが、数学は超えていないなど、教科によってばらつきがある。</p> <p>⑩ 今年度より行っている全校調査では88.4%が肯定的な回答であったが、全国学力・学習状況調査ではやや減少した。</p> <p>取組内容① 各教科で支援員の週1回の訪問などもあり、ICT機器の積極的に活用でき、生徒の興味、関心の向上につなげることができた。</p> <p>取組内容② 自主学習プリントの作成、提供を継続的に続けることができた。</p> <p>取組内容③ 養護教諭が中心となり、通常の保健活動だけではなく、整美委員会活動を活発化させ、生徒による自主的な活動を積極的に取り入れ、啓発、意識の向上を図ることができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>学習意欲については、全体としては徐々にではあるが、見られるようになってきた。全国学力・学習状況調査でもA問題に比べ、B問題の方が全国平均と比較し開きが大きく、知識理解に対して、応用力が弱い面がみられる。読む力、考える力、表現する力の育成が課題である。</p> <p>また、本校の大きな課題である家庭学習をもとにした自主学習習慣の定着については今後も継続的、発展的に取り組む必要がある。</p>	



## 平成29年度 学校関係者評価報告書

大阪市立淀川中学校協議会

### 1 総括についての評価

それぞれの検証シートやその他の資料に、本年度の取り組みがよく読み取れる。評価としては概ね妥当である。

### 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

#### 年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・学校の把握しているいじめの事象は数件ということであるが、いじめ解決に向けての組織的な取り組みについては評価できる。今後ともよりいっそういじめを見抜く力をひとりひとりの教員が身に付け、いじめはどこにでも起こりうるという認識を持ち、早期発見、早期解決に努めてほしい。
- ・教員による登校指導での生徒へのあいさつなどは今後も続けてほしい。学校の規則やきまりを守るなど、社会の一員として生きるための規範意識を育てるだけでなく、人を思いやり、自らを大切にする心を育ててほしい。
- ・不登校が学校の大きな課題であるという説明があったが、不登校生徒に対して、家庭訪問はもちろんであるが、生徒の状況に応じて学校全体で取り組んでほしい。また、不登校にならないよう、生徒のわずかな変化に気づき、的確な対応をお願いしたい。
- ・現在学校で行っているキャリア教育については今後も改良を重ねながら継続してほしい。
- ・現在ホームページ、校長室だより、保健だより、学年通信などで、学校は情報発信に努めているが、保護者が十分学校の情報を受け取っているかというやや不十分であると感じられる。さらなる改良を期待する。

#### 年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・全国学力・学習状況調査では昨年より平均正答率は増加しているが、チャレンジテストにみられるように学年によって学力の差がある。基礎、基本の学力の定着を目標に、それぞれの学年ごとの課題に応じた取り組みをお願いしたい。
- ・家庭での学習時間が短い。家庭学習習慣の定着を目指して、課題プリントの作成などを行っているが、生徒に周知徹底するなど、さらなる工夫を重ねながら、自主的に学習する生徒を育てていただきたい。
- ・体力テストの値が昨年度を男子は下回り、女子は上回ったということであるが、本校の地域は従来よりスポーツに対してひじょうに関心が高い。これからも部活動をはじめ積極的な活動を期待している。
- ・生徒による保健活動を活発化させたという説明があったが、今後も続けていただきたい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

成果がみられるものもあれば、課題を残しているところもあり、さらなる改善に努め、子どもが安心して成長できる学校づくり、そして、未来を生き抜くための学力・体力の育成に努めてほしい。